



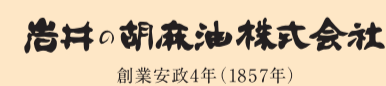
Minatomirai | Osaka  
 Shichirigahama | Toyosu  
 rhc.ronherman.jp

Kawasaki | Nagoya  
 Kumamoto



**ZUSHIFILM.COM** 

 @zushifilmfes  facebook.com/zushifilmfes  cinemacaravan



感情,表徴,情念  
 ゴダールの『イメージの本』について展  
 実行委員会

【主催】 逗子海岸映画祭実行委員会 【共催】 逗子アートフェスティバル実行委員会 【協力】 逗子市、逗子市観光協会

*Credit*

Illustration: Kazuaki Komiya Edit&Text: Takuro Watanabe Direction-Design: Saeco Baba  
 Publisher: BASE LLC.

**ZUSHI BEACH FILM FESTIVAL**  
 FROM FRI.25.APR *Times* 2025 TO TUE.06.MAY



ART WORK: MICHINORI MARU

HOW TO ENJOY  
**12 days of FESTIVITY!**

CINEMA CARAVAN PRESENTS  
The 14th  
**ZUSHI BEACH  
FILM FESTIVAL**  
12 HOW TO ENJOY FESTIVITY!  
days of

ようこそ逗子海岸映画祭へ！

4/25(金)～5/6(火)までの12日間にわたって開催される逗子海岸映画祭が、

実は毎日テーマが変わることは知っていたらどうか。

MUSIC DAY、YOUTH CULTURE DAY、SCRAMBLE DAY、WAVEMENT DAY……と、

それぞれのテーマに合わせて、映画はもちろん、ライブやDJ、ワークショップやトークイベント、

さらにはフードやドリンクまでが変わるのだ。

つまり、どの日に来ても全く異なる時間と出会いがあるということ。

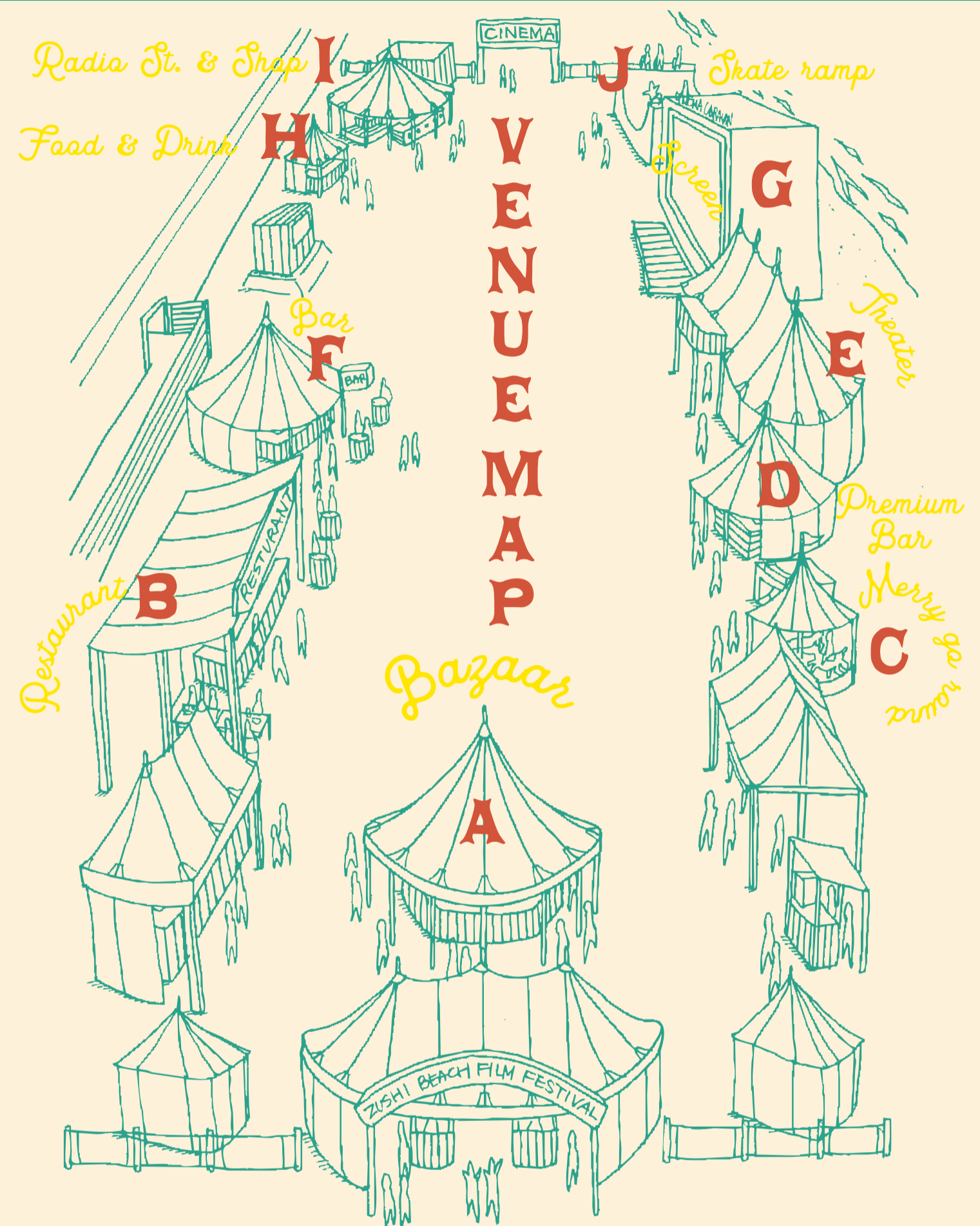
『ZUSHI BEACH FILM FESTIVAL Times』では、

このスペシャルな12日間を楽しむためのヒントを紹介。

砂浜に現れた逗子海岸映画祭という小さな街は、幻のようにあっという間に消えてしまう。

だからこそ、どの日も見逃せない。

毎日やってくる特別な瞬間を楽しもう！



- A BAZAAR:** 旅好きなら見逃せないマーケット。湘南エリアをはじめ、世界中から集まった雑貨やアートが並ぶ。ビーチに似合うアイテムや一点モノのアクセサリーなど、掘り出し物との出会いが待っているはず。
- B RESTAURANT:** 海を見ながら仲間と一緒に食べるごはんは最高だ。逗子をはじめとした近隣エリアの店が出店して、その日の会場テーマに合わせたスペシャルなメニューも揃うレストランエリア。
- C MERRY GO ROUND:** 海辺のメリーゴーランドには逗子海岸映画祭でしか出会えないはず。まるで映画のセットみたいな世界で、ノスタルジックな気分をひたるのもいい。子どもも大人も、つい笑顔になる場所。
- D PREMIUM BAR:** おいしいお酒を飲みながら仲間たちと海辺でゆっくり語りたいならプレミアムバーが最適。ここには各日ごとのテーマに合わせたお酒が待っている。毎日変化する雰囲気を楽しもう。
- E THEATER:** シアターテントでは、各日のテーマに合わせた作品上映やトークイベントを開催。テントに集まった人たちと共に時間と想いをシェアしよう。併設したギャラリーでの写真とアートの展示も見逃さない。
- F BAR:** まずはメンバーで乾杯！ 海を見ながらクラフトビールやワインを飲んでいると、テントの中に集まった初めて会う人も自然と話が弾む。いつの間にか友達が増えていく、そんな時間が過ごせる場所。
- G SCREEN:** 海をバックに広がる巨大スクリーン！ 波の音、潮風、星空、海の匂いを楽しみながら、砂浜に座ってたくさんの人と一緒に盛り上がりながら映画を観る、そんな素晴らしい瞬間は逗子海岸映画祭ならでは。
- H FOOD&DRINK:** おいしいものはレストランテントだけではないのだ。会場奥にあるフードエリアにはアジア、メキシコ、アルゼンチン、世界中の味が集結！ 映画のお供にぴったりなスナックも見逃さない。
- I RADIO ST.&SHOP:** 海辺の時間を心地よくしてくれる音楽が生まれるラジオステーションでは、映画が始まるまでの時間、毎日素晴らしいDJたちがプレイしている。ここでしか手に入らないグッズもチェックしよう。
- J SKATE RAMP:** 逗子海岸映画祭の名物といえば海辺のスケートランプ。毎年デザインを変えて登場するスケートランプでは、地元の子供からプロスケーターまでがセッション！ どんなスケーターも大歓迎！

# WAVEMENT DAY

## 4/30<sup>WED</sup>



PHOTO BY RAI SHIZUNO

### 海を知る、海と遊ぶ一日

4/30(水)はWAVEMENT DAY! 逗子の海辺で開催している逗子海岸映画祭にとって、海はものすごく大切な存在であり原点。その海の魅力や現状を発信するメディア「WAVEMENT」がプロデュースするのは、海の楽しさ、豊かさを再発見できるコンテンツが満載だ。気になっている人も多い海洋環境の問題も、まずは知ることから始めればいい。集まったみんなが海のことを学んで、海で遊ぶ楽しさと魅力をシェアして、未来につなげる一日にしよう。夜には伝説のサーフムービー『エンドレス・サマー』を上映! 砂浜に座って最高のロケーションで観るこの一本、きっと海が好きになる。

## Timetable

- 13:30 [FILM&TALK]「ここにいる、生きている。消えゆく海藻の森に導かれて」(CINEMA@THEATRE TENT)
- 15:00 [ACTIVITY] 湘南菱油 救命デモ (DECK@THEATRE TENT)
- 15:00 [FILM]「世界が恋する海 ZAMAMI」(CINEMA@THEATRE TENT)
- 16:30 [TALK] ウミトパートナーズ (CINEMA@THEATRE TENT)
- 17:00 [FILM&TALK]「dolom」 by mobb (CINEMA@THEATRE TENT)
- 17:45 [FILM&TALK] Nobody Surf (CINEMA@THEATRE TENT)
- 19:00 [TALK]「ABOUT WAVEMENT」(MAIN SCREEN)
- 19:30 [FILM]「エンドレス・サマー」(MAIN SCREEN)



Fellow  
UMITO Partners (ウミトパートナーズ)

「ウミとヒトが豊かな社会の実現」をビジョンに掲げ、海の回復力を高めるべく、持続可能(サステナブル)な漁業・養殖業への転換と海のネイチャーポジティブを推進。サステナブルな漁業・養殖業、生物多様性、気候変動対策、生態系保全保護の領域においてコンサルティング事業・マッチング事業等を実施。2023年4月には、海と漁業のサステナブルを推進する企業として、社会や環境に配慮した公益性の高い企業に対するアメリカ発の国際的な認証制度「B Corp認証」を取得。同社が運営する「UMITO SEAFOOD」の食材を期間中イベントWSなどでも使用している。



PHOTO BY RAI SHIZUNO

## About WAVEMENT

### 「ウェイブメントとは？」

「海を知る、海と遊ぶ」をテーマに発信するオンラインマガジン&体験型イベントをプロデュースする「WAVEMENT」。登場するのは、サーファー、ダイバー、カヌーカークッカー、アーティストなど海との深いつながりを持つ人々。彼らの言葉には、太古から受け継がれてきた海の知恵や、人と海の本来のつながりを取り戻すためのヒントが詰まっている。そもそも地球の約70%は海。生命の始まりも海。ということは、海を知ることは地球を知ること、ひいては自分を知ることにもつながるのだ。波に乗るのも潜るのもいいし、ただ眺めるだけでもいい。まずは海と向き合うところから始めてみよう。

### Words from WAVEMENT MAGAZINE 「WAVEMENT」記事より

「海は自分が万物のうちのひとつだという感覚を与えてくれる」 瀬筒雄太(プロロングボーダー)

「メンタルを使ってリラックスするんだ。そうすると、やさしい海が僕を抱きしめてくれる感じがする。海にハグされる感覚かな。深く潜っていると、息をする前に、その感覚が味わえるんだ」 ブランドン・ワラズ(スピアフィッシング世界記録保持者)

「カヌー作りはすごくスピリチュアルなもので、自分自身がカヌーの作り手として十分に成熟していないと、カヌーからお呼びがかからないんです。そして、カヌーを作るタイミングは自分で決めることじゃなくて、森やカヌーが教えてくれることなのです」 アリカ・ブマタイ(カヌー職人)



More WAVEMENT.NET



### WAVEMENT Products 「ウェイブメント」のプロダクト

WAVEMENTとも関係が深いアーティスト・栗林隆が描いたペンギンをデザインしたTシャツ(左)。ペンギンは海と陸の境界線を生きる生き物。海とつながるアイコンなのだ。そして、鎌倉のヨロッコビールの「Submarine Forest」(右)。逗子の海で採れたワカメを使って醸造した海そのものみtainなビールは、ミネラル感がたまらない。海を感じながら飲む一本は最高なはず。どちらもシアターテントで販売!

# SCRAMBLE DAY

4/26

人生という旅を自由に生きるヒントが満載

「ごちゃ混ぜ」の意味を持つスクランブルをテーマに掲げたこの日は、世代や性別、国籍を越えてさまざまな人や想いが混ざりあうことの豊かさを感じる1日だ。もう一つのテーマは「middle of life journey」。アーティストのパフォーマンス、バザールのショップの人たち、そしてシアターテントなど会場中のさまざまなセクションで、人生という旅を自由に自分らしく生きるためのヒントを得ることができるはず。出演アーティストはバンドHedigan'sとラッパーのin-d! 上映作品は、貧困層の母子家庭の逞しさを描く「フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法」をセレクト。

## GUEST ARTIST



### Hedigan's (Acoustic set)

河西「YONCE」洋介、栗田将治、栗田祐輔、本村拓磨、大内岳の5人組。2023年F.C.L.S.より、1st Digital Single「LOVE (XL)」をリリースし本格始動。2025年全国8都市を巡るツアーを開催。



### in-d

ヒップホップクルーTHE OTOGI-BANASHI'Sのメンバー。2013年にアルバム「TOY BOX」でデビュー。チルなフロウと詩的なリックでオルタナティブヒップホップシーンを牽引。



## MOVIE 「フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法」

監督：ショーン・ベイカー  
2017年/US/115min

2008年に発生したサブプライム住宅ローン危機の余波に苦しむ貧困層の人々の物語を6歳の主人公の視点から描写したアメリカ映画作品。本作でウィレム・デフォーがアカデミー助演男優賞にノミネートされた。

# YOUTH CULTURE DAY

4/29

現代を生きる私たちにのルーツはどこにある？

2022年から始まったYOUTH CULTURE DAYは、逗子海岸映画祭をプロデュースするシネマキャラバンのコミュニティで育った次世代の若者たちによってオーガナイズされる特別な日。2025年のテーマは「SOUND ROOT」。「私たちは普段、さまざまな音楽に囲まれているけど、そのルーツは一体どこにあるんだろう？ そのルーツを探り、そして大切にしていこう」という思いからこのテーマが生まれたのだとか。次世代のクリエイターたちが作り上げる、新しい価値観で満たされる一日になる。

## GUEST ARTIST

### 民謡クルセイダース



日本民謡とラテン・リズムの融合を21世紀に再び再生させる民謡クルセイダース。クンビア、ビギン、プーガルー、カリブソ、アフロ、ルンバ、レゲエ、モーラムなど様々なダンスミュージックと、失われた音楽「日本民謡」との化学反応を試みつけたバンドは、国内外から高い評価を得ると共に「民謡」の存在を世界に知らしめている。



### Sound Anthropolgy Mixtape Ft. Ella Sophocleides



ロンドンを拠点に活動する、北インド古典音楽を基盤にしたフュージョンバンド。北インド伝統音楽の学びを深める一方、ジャズ、ブルース、日本のフォークなどの様々な音楽からの受けた影響を取り入れながら、リズム、ラーガ、ターラ、マカムを融合させ、独自のサウンドを形成している。



## MOVIE 「ブリング・ミンヨー・バック！」

監督：森脇由二  
2023年/JP/90min

失われつつある音楽・民謡をもう一度「民の歌」としてよみがえらせるべくダンスミュージックとの融合を試みる民謡クルセイダースに密着したドキュメンタリー。彼らのライブを見て衝撃を受けた森脇由二監督が、5年間にわたって密着。ワールドツアーにも同行し、彼らが民謡を再構築して現代のオーディエンスに“民謡を戻す”過程を映し出す。



## バブアー 七里ガ浜ポップアップストア

2025年3月28日(金)～6月24日(火) 営業時間 10:00～19:00  
〒248-0026 神奈川県鎌倉市七里ガ浜 1丁目1-1 Weekend House Alley1F



Online Store



@barbourjapan



Barbour

# KIDS DAY

4/27

海と山、スケートとヒップホップな一日

逗子海岸映画祭は大人のためだけのものじゃない。この日は子どもたちが全身を使って楽しむことができるワークショップコンテンツが盛りだくさん。スチャダラパーのBOSEとビートボックスのAFRAによるビートボックスイベント「DO THE BEATBOX」は今年も開催！世界を驚かせたビートボックスのYAMORIも参加するので要注目。また、HELLY HANSEN KIDS OCEAN SCHOOLによるワークショップ「木工ヨットのおもちゃをつくる」や、VIVOBAREFOOTによる逗子の山をフィールドにした探索イベントなどキッズ向けコンテンツが充実。さらに、キッズスケートボード大会の初開催など、様々なカルチャー&遊びの集合体になっている。

## CONTENTS 五感を使って楽しむ多彩なワークショップ！



### "DO THE BEATBOX"

ビーチでビートボックスセッション！

日本にヒップホップを広めた立役者・BOSEと日本のビートボックスのバイオニア・AFRAが、ヒップホップ文化の一つであるビートボックスの楽しさを子どもたちと一緒にセッション&シェアするワークショップ。

### "KIDS SKATEBOARD CONTEST"

キッズたちの熱いスケートコンテスト

逗子海岸映画祭の名物の一つでもあるビーチに設置されたスケートボードランプで開催される初のキッズスケートボードコンテスト！もちろん初心者でもエントリーOK。海辺のランプでスペシャルなスケート体験。



### "HELLY HANSEN KIDS OCEAN SCHOOL"

木工ヨットのおもちゃづくりワークショップ

アウトブランドHELLY HANSENが主催する子ども向けの海洋体験プログラム。海でのアクティビティを通して海の楽しさや大切さを学びながら、自然を守ることを伝えている。

### "VIVOBAREFOOT KIDS & STOBINO CLUB"

足の力と逗子の自然を感じよう

裸足の力を取り戻すエアフットシューズ「VIVOBAREFOOT」を履いて海岸と山を散策する体験と、足の話をテーマにした紙芝居&ゲームとスライドショーで、足の素晴らしさや面白さについて楽しく学ぶ。



## MOVIE 「さかなのこ」 監督：沖田修一 2022年/JP/139min

タレントとしても活躍する魚類学者、さかなクンの人生を映画化。生きづらくなっている子どもが多い現代において、「自分の“好き”を信じてやりたいことをやればいよいよ」と背中を押してくれるような作品。



2025年プログラム  
5月中旬より募集開始！



子どもたちにとって、「海が居心地の良い場所になるように」、水辺のフィールドで遊ぶことの楽しさや、安全に楽しむための様々なことを体験しながら知っていくための年間プログラム。

水辺で遊び、地球を知る。  
ヘリーハンセンの海の学校  
「キッズオーシャンスクール by ヘリーハンセン」  
今年も開校いたします！

WEBページはこちら▼



# THEATER TENT

会場中央に位置する移動式のシアターテントを構成するデッキ、ギャラリー、シアターの3つのセクションでは、逗子海岸映画祭の開催期間中、さまざまなライブやワークショップ、写真やアートの実演や映像作品上映が行われる。さらに、シアターテントの一角がインドネシア・バリ島からやって来たアーティスト集団Black Menu Studio Baliの創作スタジオとなり、ライブでアート作品が制作されるのだ。日々変化と進化を繰り返してクリエイティブが生まれるシアターテントの動きを見逃さずに！

## Music Live! & workshop

デッキスペースでは、注目のアーティストのライブパフォーマンスと、各日のテーマに沿ったワークショップを開催。ライブやワークショップのスケジュールは逗子海岸映画祭のウェブサイトをチェック。

## Art Exhibition

写真家・志津野雷による「海を知る、海と遊ぶ」をテーマにした写真展「WAVEMENT Exhibition by Rai Shizuno」と、Black Menu Studio Baliのアートエキシビション「Kabar-Kabar」を開催。



## Studio

インドネシア・バリ島からやって来たアーティスト集団Black Menu Studio Baliのスタジオでは、日々作品制作が続けられる。インドネシアで注目を集める彼らのクリエイティブ性に触れよう！

## Cinema

ミニシアターでは、映像作品の上映やトークイベントが行われる。心地いい映像に出会えたり、コンセプト的な作品に考えさせられたり、集まった人と意見をシェアもできる、複合的な空間。

カルチャーとクリエイティブが交差する、旅するシアターテント



# CINEMA CARAVAN WORKS

逗子海岸映画祭のクリエイション

エントランスをくぐると、他のどんなイベントにもない空間が広がっている。「きっかけはアメリカのオレゴンで見たパーティーの光景でした。ビーチに大きなテントを張って、ローカルたちが楽しそうに過ごしている素晴らしい光景で、あの感じを地元でできたらいいなと思ったんです」大工、ミュージシャン、デザイナーからなるクリエイティブ・コレクティブ、シネマキャラバン代表で写真家の志津野雷はそう語る。そして生まれた逗子海岸映画祭は、いわゆる「映画祭」の様式ではなく、集まった人たち同士の交流を通じ、なにを見て、なにを伝えていくかを考え、シェアする場にしたいというシネマキャラバンの想いが立体化した空間なのだ。



## 1 ART WORKS

エントランスゲートをはじめ、会場内のサインペイントや装飾、そして、上映作品を題材にしたチョークアートによる看板など、逗子海岸映画祭のビジュアルデザインの全てを手がけているのは、アーティストの丸倫徳。「アナログの古き良き世界感を現代らしく表現したいと思っています」と丸は語る。彼が描くハンドペイントのグラフィックが、逗子海岸映画祭全体のムードをつくりあげているのだ。雨や風といった自然環境の変化に流動的に対応しながら、逗子海岸映画祭の世界は生まれる。

## 2 TENT

逗子海岸映画祭の会場には、既製品のテントはひとつもない。10張りの個性的なテントはシネマキャラバンのオリジナルデザインで全てハンドメイドによってゼロから作り上げたものばかりだ。「自分たちの手でつくことに意味があります」と語るのはデザイナーの小宮一晃。テント制作の始まりは2015年に開催直前に台風でテントが破れしまったことにある。急遽ミシンを用意してビーチでテントを修復した時に「これは自分たちで作れるな」とひらめいたのだそう。それ以来、回を重ねるごとにオリジナルテントが増え、今では全てのテントがオリジナルになったというわけだ。



## 3 BOOTH

バザール、レストラン、バー、ギャラリー。逗子海岸映画祭という海岸に現れる小さな街を形成しているブースも、第1回目から全てがシネマキャラバンのオリジナルメイド。「はじめはほとんどのメンバーが大工技術もないから大変でした。その場のアドリブで生まれるものも多かったのですが、それがとても楽しいです」と大工の原口英興は語る。会場を作るスタッフのスキルが年々磨かれていき、年々規模が拡大。各地で開かれる多くのフェスやイベントが建材を毎回廃棄している中で、逗子海岸映画祭の会場で作られる材料はギリギリまで使い回され、不揃いの材料もデザインとして生かされていく。



# FUTURE

2010年にスタートしたシネマキャラバン。逗子海岸映画祭のプロデュースから始まり、国と地域を越えて、その土地の個性を活かしながらアート、音楽、食、映画などを通じたコミュニティづくりを行ってきた。そのシネマキャラバンが次に目指しているのは、東京の都心、品川に森をつくることらしい。いったいそれはどういうことなのか？ 代表の志津野雷氏に話を聞いてみた。



## Q 品川に森をつくるとは？

「2018年から会場演出で関わらせていただいているイベントに品川国際映画祭があります。その主催者である日鉄興和不動産さんと一緒に、品川インターシティ セントラルガーデンに、パーマカルチャーをベースにしたコミュニティガーデンを作るプロジェクトを進めています。コミュニティガーデンとは『地域の庭』を意味していて、地域内の人たちが自主的に集まって植物を栽培するオープンスペースのことで、行政などが主体となって運営する公共スペースとは違い、基本的には地域コミュニティの自発的な活動によって運営するものなんです。場所を活性化させるために大切なのは、何よりもその場所も日常的に利用し、暮らす人たちが自分ごと化することだと思うんですね」

### 1. パーマカルチャーでのコミュニティガーデンづくり

「パーマカルチャーとは、パーマナント(永続性)と農業(アグリカルチャー)・文化(カルチャー)を組み合わせた言葉で、持続可能な農業を通じて人と自然が共に豊かになるような関係構築手法である『地球への配慮』『人々への配慮』『余剰物の共有』という3つを原理としています。そのパーマカルチャーの考えのもと、コミュニティガーデンをつくりたいのです。パーマカルチャーってとても面白くて、例えば秋の落ち葉も、それがゴミではなく未来をつなぐ肥料になったりすることがわかるし、全ての生き物がつながり、意味を持っていることが理解できます。この取り組みは千葉県南房総でパーマカルチャーの研究をしているフィル・キャッシュマンさんと一緒に進めています」

### 2. アートもカルチャーも自然環境があってこそ

「僕たちシネマキャラバンがやり続けているアート、音楽、食、映画などを通じたコミュニティづくりも、まずは自然環境というベースが整っていないことには何も成立しないと思ったんです。暮らす地域の環境のサーキュレーションが機能していないことには、クリエイティブも生まれません。自然環境がうまく整っていないところで見栄えだけよくしても、それは本質的なものではないと思うんですね。最近では『シネマキャラバンが通ると森ができる』というちょっと大きなテーマを掲げているのですが(笑)。例えば、品川という東京都心部で自然と向き合う場所をつくることで、自然との関わり方を考えるきっかけを与えることはできるはずですよ」

### 3. シネマキャラバンが目指す未来

「僕たちがやっていることは、傍から見れば『イベント』ではあるかもしれないんですけど、その場を通して生きる力を育みたいんです。自然と触れ合う場にしたいという思いもあります。逗子で逗子海岸映画祭をやっている理由もそういうことで、都心部にも本質的な自然に触れられる場所をつくることで、自然に触れて、そこで何かを得て持ち帰ってもらえたらと思っています。逗子海岸映画祭のコンセプトも映画を見るだけの場ではなくて、集まった人たちが知恵や思いをシェアして、自分ごと化して未来につないでいけるようにすることを目標としています。そこで生まれるのは小さなきっかけに過ぎなくても、やがてムーブメントになればいいなと願っています」

### 志津野雷

写真家/映像作家。CINEMA CARAVAN主宰。BASE LLC.共同代表。1975年生まれ鎌倉育ち。カメラマンとして世界中を撮影しつつ、地元・逗子をベースにした活動にも力を注ぐ。



BASE LLC. base-llc.com

